

# えびの市 島内 139 号地下式横穴墓 調査速報

(しまうち 139 ごう ちかしきよこあなぼ)

—1500 年前の大量の副葬品を納めた地域首長墓を完全な状態で発見—



玄室内パノラマ合成写真

## 島内 139 号地下式横穴墓出土品一覧

品名	数量	新古相	備考	
人骨	1号人骨	1	(男性?)	
	2号人骨	1	女性	
銅鏡	倣製盤龍鏡	1	鏡箱入り(葛籠箱)	
	装身具	11	一連・1号人骨着装	
刀剣類	貝釧(イモガイ製)	3	新 2号人骨着装	
	銀装円頭大刀	1	新	
	大刀(鹿角装)	1		
	剣(鹿角装)	1		
	大刀(鹿角装)	1		
甲冑	ヤリ	1	1号人骨に伴う 2号人骨に伴う 木製柄を伴う	
	短甲	1	古	
	衝角付冑	1		
	頸甲	1		
	肩甲	一式		
弓矢	草摺	1	革製漆塗り	
	矢鏃(東1群)	約30	新	
	矢鏃(西9群)	250以上	新・古	
	骨鏃	15程度		
	弓	5		
	平胡篳	1	新	
	弓金具(両頭金具)	5		
	弭(鹿角製)	1以上		
	馬具	馬具Aセット	1	
		鈴杏葉	3	
環状雲珠		1		
辻金具		3		
鈴		8		
馬具Bセット		1	新	
無脚雲珠		1		
無脚辻金具		3		
刀子・小刀	鉸具	3		
	小刀	6	1号人骨頭部、鹿角製柄、獣毛付革製鞘入り品有り	
	刀子	5	1号人骨頭部	
	刀子	2	鏡周辺	
その他	ノミ	1		
	赤色顔料		1号人骨頭部、鏡、西鏃群下など	
	革		1号人骨上半部	
	布		1号人骨に伴う剣・大刀・円頭大刀に大量附着	
ハエ鏝	2群		1号人骨に伴う剣・大刀に附着	

2015年1月現在の認識であり、今後の分析の進展によって変更の可能性あり。

## 【被葬者像】

・地域の個性、地下式横穴墓に高い地位の首長を葬る。

：在地首長ながら、ヤマト王権との強い関係を持ち、各地を代表する前方後円墳を築くクラスの評価が与えられた人物。

：実際にヤマト王権の軍事に関与したり、あるいは朝鮮半島交渉などに関わり活躍し、功績が評価された人物の可能性。

・時代の境に生きた首長：雄略朝～継体朝への政治変動期。

：139号地下式横穴墓の副葬品には新古の二相ある。古墳時代中期と後期の境目にまたがり活躍した人物。時代は雄略朝の後から継体朝。

：2号人骨は女性。武器武具は基本的に男性に伴うものなので、大量の副葬品は1号人骨(推定・男性)が二度にわたって手に入れた可能性。

：武器・武具の質・量から、武人的性格。軍事などで功績のあった人物か。

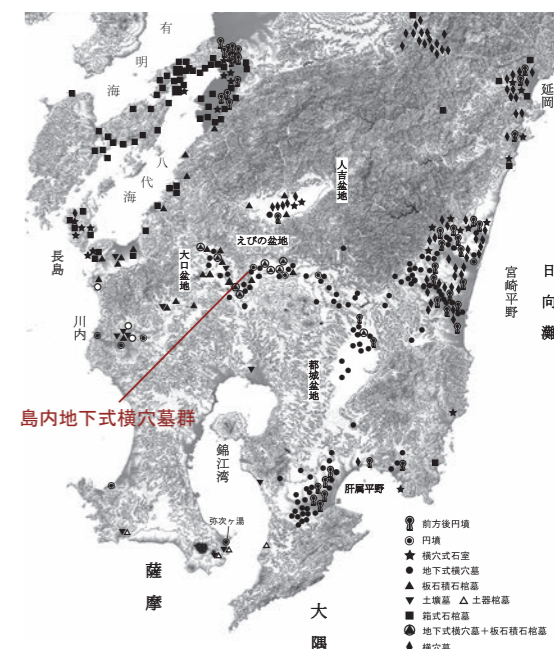
調査においては多くの考古学・文化財関係各機関・個人の協力を得ました。今後さまざまな科学分析・保存処理を経て、報告書作成に至るまでの間に新たな発見も予想されます。公開・活用までは長期間の年月が必要になりますが、今後とも、新しい情報は発信してまいりますので、みなさまのご理解、ご協力をよろしくお願いいたします。

## 【調査要項】

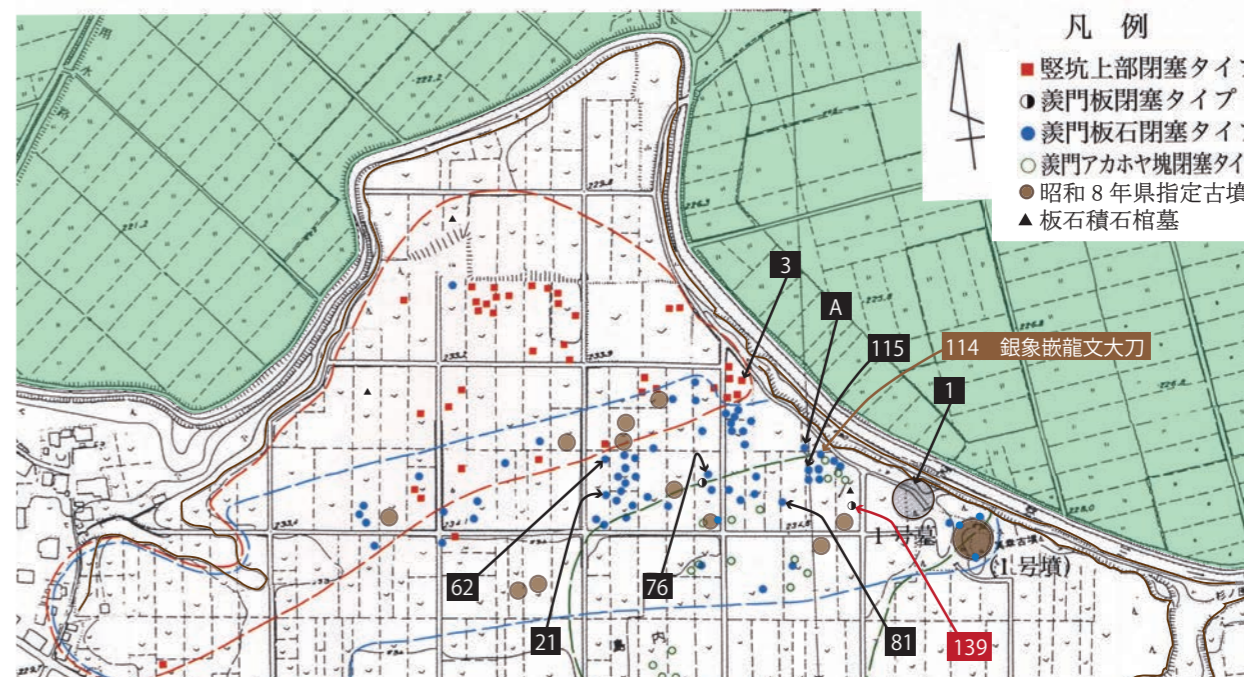
1. 遺跡名 島内 139 号地下式横穴墓 (島内地下式横穴墓群 139 号墓)
2. 調査主体 えびの市教育委員会 調査協力：鹿児島大学総合研究博物館
3. 調査地 宮崎県 えびの市 島内 字杉ノ原
4. 調査期間 平成 26 年 10 月 20 日～平成 27 年 1 月 30 日予定
5. 調査要因 道路拡幅・駐車場整備に係る事前調査(板石積石棺墓の展示施設の周辺環境整備)
6. 備考 これまでの調査で出土した「島内地下式横穴墓群出土品」1029 点は平成 24 年に国の重要文化財に指定。

## 【調査の基礎情報】

- ・島内 139 号地下式横穴墓の年代は 5 世紀末～6 初頭＝古墳時代中期末～後期前葉。
- ・墓の形態は九州南部に特徴的な地下式横穴墓(墳丘や埴輪はない)。
- ・島内地下式横穴墓群の墓としては玄室は最大級。
- ・島内地下式横穴墓群は豊富な副葬品で知られ、国重要文化財にも指定されている島内地下式横穴墓群のなかでも、最多・最上位の副葬品が、完全な状態で出土。
- ・男女と考えられる二人埋葬。追葬の痕跡はなし。



九州南部の中の島内地下式横穴墓群の位置



島内地下式横穴墓群 (黒地白抜き数字は甲冑出土墓)

問い合わせ：えびの市教育委員会 社会教育課 899-4311 えびの市大字大明司 2146-2 0984-35-2268

編集・文責：鹿児島大学総合研究博物館 橋本達也

矢・短甲



弓・矢



馬具・弓



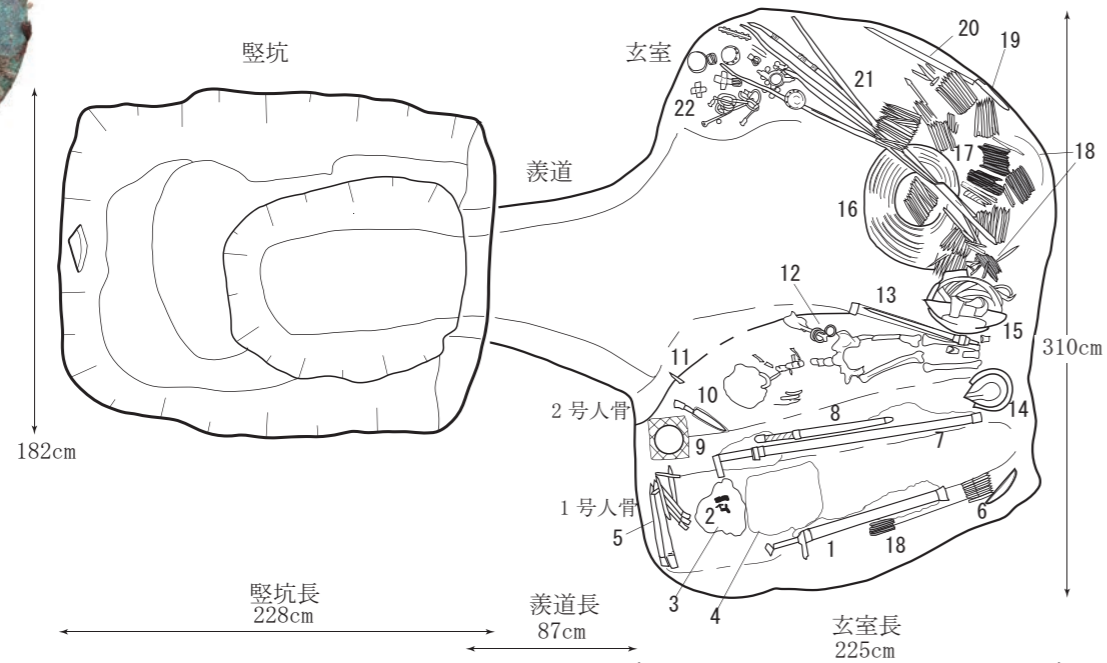




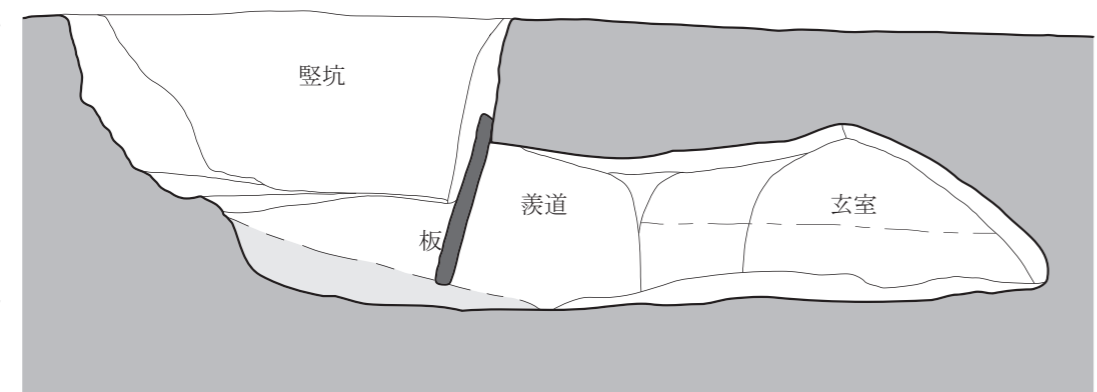
鏡（倣製盤龍鏡）



銀装円頭大刀



- 1. 剣（繊維・ハエ蛹殻付着） 2. 管玉 3. 赤色顔料 4. 革 5. 小刀・刀子群
- 6. 平胡籙・鉄鏃 7. 大刀（繊維・ハエ蛹殻付着） 8. 円頭大刀（繊維付着） 9. 鏡（鏡箱入り）
- 10. 小刀 11. 刀子 12. 貝釧 13. 大刀 14. 衝角付冑 15. 短甲・頸甲・肩甲
- 16. 草摺 17. 鉄鏃群 18. 黒漆塗矢柄端部 19. ヤリ 20. ヤリ柄 21. 弓
- 22. 馬具（2組）



竖坑深さ 約 160cm 羨道高 85cm 玄室高 94cm

各部位の計測値は計測部によって数 cm 程度は変動します。

島内 139 号地下式横穴墓 模式図

### 【調査成果・副葬品の特徴】

- ・未盗掘で、土に埋もれず、完全な状態の副葬品が大量に出土  
1500 年前のタイムカプセル。  
：土に触れず、通常では腐ってしまうような、繊維や革などが多量に残存。ハエの蛹も出土＝葬送儀礼・埋葬過程を復元する重要情報。

- ・きわめて高い地位の地域首長の墓：ヤマト王権、朝鮮半島情勢との関わり。  
島内地下式横穴墓群のなかで、最多・最上位の副葬品。主要な前方後円墳被葬者クラス。  
とくにそれを表すのは下記の副葬品

**装飾付大刀（銀装円頭大刀）**：朝鮮半島製（百濟ないしは加耶）

：日本で類例の少ない大刀。1号人骨に伴うもので、この人物が朝鮮半島での活動（軍事や交易などの交渉）に関わった可能性。

**甲冑セット（衝角付冑・短甲・頸甲あかべよろい・肩甲）**

：甲冑はヤマト王権との直接的な政治関係を結んだことを示す配布品。

：島内は甲冑出土の多い特殊な墓群として知られているが、頸甲・肩甲・草摺を含むセットの完存は初。他の墓よりも地位の高い被葬者。

：同時期の革製草摺は類例がない。稀少品。

**矢の多さと装飾性**

：約 300 本の矢。近接する時期では全国でも 3 番目の出土数。

：矢は 10 群あるが、そのうち 5 群には矢羽根周辺に黒漆を塗っている。通常の矢には塗らない装飾で稀少品。

**2組の装飾馬具（鈴付杏葉、金銅装（鉄地金銅製）雲珠・辻金具など）**

：島内で装飾付馬具は初。地下式横穴墓で装飾付馬具はきわめて珍しい。それが 2 組。

：五鈴杏葉は日本国内で他に 14 例。5 世紀末から 6 世紀前葉の各地を代表する前方後円墳あるいは大型円墳で出土。上位首長層の保有品。

**鏡（倣製盤龍鏡）**

：地下式横穴墓出土鏡として現存では最大。

：ヤマト王権からの配布品。5 世紀末～6 初頭では鏡の副葬は古墳でも少なく地位の高い首長。鏡の製作時期は 4 世紀後葉、宝物としての伝世品。

：箱に入った状態で出土。鏡箱の出土は珍しい。

**平胡籙**

：装飾付の矢入れ具。同型のはきわめて珍しく全国で 15 例程度。九州では福岡で 1 例。

竖坑



羨道からのぞいた玄室内



玄室内中央部付近



玄室内右側（東）

